

科目名	眼筋機能病理学演習			分野・必選別・ 単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 林 孝雄					科目ナンバー	T1C106
課程	博士前期	配当年次	2年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要	眼筋機能異常の診断法を修得する。						
授業の到達目標	<p>① 眼球運動異常として、核上性眼球運動異常、核および核下性眼球運動異常としての麻痺性斜視、神経筋接合部異常および外眼筋異常による筋原性斜視、眼窩内異常による機械的斜視について診断法を評価することができる。</p> <p>② 眼振について記録法を学びその解析を説明できる。</p> <p>③ 眼筋機能異常のうち機械的斜視について画像診断と眼球運動異常との関係を説明できる。</p> <p>④ 眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。</p>						
授業計画	回数	担当者			行動目標		
	1	林 孝雄	教授	眼筋機能異常の原理 実際の眼球運動異常をみながら、核上から外眼筋までの眼球運動を構築する全機構を学修し、その診断について説明できる。眼振については、その検査と診断法を説明できる。			
	2	林 孝雄	教授	眼筋機能異常の原理 実際の眼球運動異常をみながら、核上から外眼筋までの眼球運動を構築する全機構を学修し、その診断について説明できる。眼振については、その検査と診断法を説明できる。			
	3	林 孝雄	教授	眼筋機能異常の原理 実際の眼球運動異常をみながら、核上から外眼筋までの眼球運動を構築する全機構を学修し、その診断について説明できる。眼振については、その検査と診断法を説明できる。			
	4	林 孝雄	教授	眼筋機能異常と画像診断 実際の眼球運動異常をみながら、機械的斜視の画像診断と眼球運動異常との関係を説明できる。			
	5	林 孝雄	教授	眼筋機能異常と画像診断 実際の眼球運動異常をみながら、機械的斜視の画像診断と眼球運動異常との関係を説明できる。			
	6	林 孝雄	教授	眼筋機能異常と画像診断 実際の眼球運動異常をみながら、機械的斜視の画像診断と眼球運動異常との関係を説明できる。			
	7	林 孝雄	教授	眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。			
	8	林 孝雄	教授	眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。			
	9	林 孝雄	教授	眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。			
	10	林 孝雄	教授	眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。			
	11	林 孝雄	教授	眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。			
	12	林 孝雄	教授	眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。			
	13	林 孝雄	教授	眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。			
	14	林 孝雄	教授	眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。			
15	林 孝雄	教授	眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 回次の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	丸尾敏夫、久保田伸枝 著:斜視と眼球運動異常、株式会社コムラ、2017年 丸尾敏夫 他 編:視能学 第2版、文光堂、2011年 大鹿哲郎 編:眼科プラクティス 6、眼科臨床に必要な解剖生理、文光堂、2005年 大鹿哲郎 編:眼科プラクティス 25、眼のバイオメトリー、文光堂、2009年 丸尾敏夫 編:眼科プラクティス 29、これでいいのだ斜視診療、文光堂、2009年						
参考書							
成績評価の方法および基準	レポート30%、口頭試問60%、授業内課題10% 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 (ディプロマ・ポリシー3に相当する)						